

慶應義塾大学ビジネス・スクール

国際標準 ISO の概要と活用法*

—国際マネジメント規格 (ISO 9001、14001) を中心として—

5

本稿では、国際標準 ISO の中の国際マネジメント規格 (ISO 9001 ならびに ISO 14001) の概要と活用法について述べる。初めに、ISO 全般について広く理解が得られるように、その重要事項について記述し、その後でISOを活用しているいくつかの企業の実例を紹介し、ISO 活用に向けた課題と留意点に言及する。

10

1. はじめに

ISOはInternational Organization for Standardizationの略称であり、国際標準化機構と訳されている。従って、フルネームの頭文字を単純に並べれば「IOS」となるはずであるが、実は、このISOとは、“相等しい”を意味するギリシア語“isos”からとられた名称である。ISOはいくつものシリーズに分かれているが、代表的なものは製品化のプロセスに対して 15
認証するISO 9000シリーズ：「品質管理、品質保証の国際規格」と、環境マネジメントに関する規格ISO 14000シリーズ：「環境管理の国際規格」の2つである。

昨今、新聞紙上を賑わし、組織や企業で話題となっている国際マネジメント規格ISO 9001 ならびにISO 14001は、品質管理、環境管理システムを構築・運営する規格であって、品質の良し悪しや環境負荷軽減の水準にお墨付きを与える規格ではない。規格には、こうい 20
うことをしなさいと定められているが、それをどのように実行するかはそれぞれの組織に委ねられている。例えば、ISO 9001の要求規格は、資材を調達するときは仕入れ先を評価して、妥当であれば資材調達先として認め、そこから購入しなさいと定めている。但し、仕入れ先の評価方法は組織企業体が任意に決定することになる。従って、評価方法はその企業の伝統を引き継ぎながら継続的に改善していくか、その仕組みやルールがなければ新 25
たに構築するか、または思い切って改革するかのいずれかである。評価方法が悪ければ、

* 本ノートは、クラス討議の資料として、新栄デザイン総合技術士事務所代表の高松徳治が、慶應義塾大学ビジネススクール教授河野宏和と共同で作成したものである (2004年6月作成)。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール (〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp)。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法 (電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない) による伝送は、これを禁ずる。

30